

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

4.国際連携と国際協力

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5478

4 国際連携と国際協力

海外研究機関との研究協力協定

国名 フランス
相手機関名 国立パリ・デカルト大学・人口開発研究所
協定書等名 国立民族学博物館と国立パリ・デカルト大学・人口開発研究所との学術協力に関する協定
締結日 2012年11月30日
協定終了予定日 2015年11月29日
目的 これまでの建設的な共同研究を評価し、これをさらに強化すべく相互の理解と関心という行動指針に基づき、今後の学術的共同研究を発展させるため、本協定を締結する。
協定内容 両機関は共同研究事業において、学術的交流および協力を推進する。

国名 中国
相手機関名 中国社会科学院民族学・人類学研究所
協定書等名 国立民族学博物館と中国社会科学院民族学・人類学研究所との学術交流協定
締結日 2012年8月28日
協定終了予定日 2015年8月27日
目的 両機関の学術交流を通して国際的な連携を進めるため、平等互惠と相互尊重の理念のもとに、この協定を締結する。
協定内容 ・研究プロジェクトの展開
・双方の教員・研究者交流
・研究資料、学術情報および公開出版物についての交換と相互利用の展開
・その他両機関で合意された分野における協力

国名 フィリピン
相手機関名 国立博物館
協定書等名 国立民族学博物館とフィリピン国立博物館の学術協力に関する協定
締結日 2012年7月18日
協定終了予定日 2017年7月17日
目的 相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術協力および交流の強化および発展のために本契約を締結する。
協定内容 共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進。

国名 アメリカ合衆国
相手機関名 アシウィ・アワン博物館・遺産センター
協定書等名 国立民族学博物館とアシウィ・アワン博物館・遺産センターの学術協力に関する協定
締結日 2012年6月3日
協定終了予定日 2017年6月2日
目的 相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する。
協定内容 ・双方の教職員・研究者の交流
・共同研究プロジェクトの展開
・博物館資料の展覧および教育分野における協力活動
・学術研究資料、学術情報および公開出版物についての交換と相互利用の展開
・その他両機関で合意された分野における協力

国名 ベトナム
相手機関名 ベトナム生態学生物資源研究所
協定書等名 国立民族学博物館とベトナム生態学生物資源研究所の学術協力に関する協定
締結日 2012年3月22日
協定終了予定日 2017年3月21日
目的 相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術研究および交流の強化、発展のために本契約

	を締結する。
協定内容	共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進。
国名	ロシア
相手機関名	ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）
協定書等名	国立民族学博物館とロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）との間の協力および文化交流に関する協定
締結日	2011年10月21日
協定終了予定日	2016年10月20日
目的	学術、文化の両分野において相互交流および協力関係を発展させることを目的とする。
協定内容	野外調査および学術・理論的研究、博物館関連活動の分野における交流を以下の項目について実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の交流 ・野外調査、学術・理論的研究、学術集会の共同実施 ・展示および教育プロジェクトの共同実施 ・学術情報および刊行物の交換 ・両博物館の合意による、その他のあらゆる学術分野の活動
国名	ロシア
相手機関名	ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所
協定書等名	国立民族学博物館とロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所との間の協定
締結日	2011年6月1日
協定終了予定日	2016年5月31日
目的	考古学、人類学、および民族学の共同研究を目的とする。
協定内容	2011年から2016年にわたって行われる考古学、人類学、および民族学の共同研究を本協定の対象とする。協定は下記の事項を実現させるものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・考古学、民族学の分野における共同調査 ・ロシアと日本における共同の研究集会 ・研究成果の共同出版
国名	ロシア
相手機関名	ロシア民族学博物館
協定書等名	国立民族学博物館とロシア民族学博物館との間の博物館学および文化研究の分野における学術協力に関する協定
締結日	2010年12月3日
協定終了予定日	2015年12月2日
目的	博物館学、調査研究、文化財保護の各分野における協力・相互支援関係を樹立する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・両博物館が保有する歴史的、文化的財産の保存状態改善を目的としたプロジェクトの支援 ・両博物館の研究者交流 ・ロシア民族学博物館が実施するシベリア、中央アジア、極東、北コーカサスでの民族学的フィールドワークへの民博の研究者の参加 ・両博物館が指名する経理、データベース構築、収集品の考証、資料の分類、保存科学などの諸分野の専門家の交流
国名	ペルー
相手機関名	教皇庁立ペルーカトリカ大学
協定書等名	国立民族学博物館と教皇庁立ペルーカトリカ大学との間の学術協力の一般協定
締結日	2010年12月1日 / (更新) 2013年11月29日
協定終了予定日	2016年11月28日

目的	双方の利益になる協力活動を実現するためのガイドラインを定める。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同の研究活動とアウトリーチ活動 ・ 講演会とシンポジウムの共同策定 ・ 教員の交流 ・ 学術的または科学的資料、および双方の利益となる刊行物の交換 ・ その他、両者が互いに合意し、双方にとって有益な活動
国名	マダガスカル
相手機関名	アンタナナリヴ大学
協定書等名	国立民族学博物館およびマダガスカル国アンタナナリヴ大学の学術協力に関する協定
締結日	2010年11月22日 / (更新) 2013年11月22日
協定終了予定日	2016年11月21日
目的	互恵性と平等の理念のもとに、学術分野で相互に利益ある協力活動を進める。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究者の交換 ・ 共同研究プロジェクトの実施運営 ・ シンポジウムや講演の開催 ・ 学術情報や資料の交換 ・ 互いに同意したその他の学術協力の推進
国名	英国
相手機関名	エジンバラ大学
協定書等名	国立民族学博物館と英国エジンバラ大学との研究交流協定
締結日	2010年5月17日
協定終了予定日	2015年5月16日
目的	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術研究に関し、両機関が合意する事業の交流・協力
国名	中国
相手機関名	故宮博物院
協定書等名	国立民族学博物館と中華人民共和国故宮博物院との研究交流協定
締結日	2009年10月16日 / (更新) 2012年8月28日
協定終了予定日	2015年8月27日
目的	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術研究に関し、両機関が合意する事業の交流・協力
国名	台湾
相手機関名	国立台北芸術大学
協定書等名	国立民族学博物館と台湾国立台北芸術大学との学術協力の協定
締結日	2009年5月15日
協定終了予定日	2014年5月14日
目的	相互の学術交流と両者の発展を目的とした学術協力関係を築く。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方の教職員・研究者の交流 ・ 研究プロジェクトの展開 ・ 博物館展示品および教育分野における協力活動 ・ 学術研究資料、学術情報および公開出版物についての交換と相互利用の促進 ・ その他両機関で合意された分野における協力
国名	中国
相手機関名	内蒙古大学
協定書等名	国立民族学博物館と中華人民共和国内蒙古大学との学術協力の協定

締結日 2008年9月22日 / (更新) 2013年7月25日
 協定終了予定日 2018年7月24日
 目的 相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する。
 協定内容

- ・双方の教職員・研究者の交流
- ・研究プロジェクトの展開
- ・博物館展示品の展覧および教育分野における協力活動
- ・学術研究資料、学術情報および公開出版物についての交換と相互利用の展開
- ・その他両機関で合意された分野における協力

国名 韓国
 相手機関名 韓国国立民俗博物館
 協定書等名 国立民族学博物館と大韓民国国立民俗博物館との文化交流協定
 締結日 2007年7月11日 / (更新) 2012年6月15日
 協定終了予定日 2017年6月14日
 目的 学術、文化交流を通して友好関係を強化し、この関係を発展させる。
 協定内容

- ・教職員および研究者の交流
- ・共同研究および研究集会の実施
- ・博物館の展示および教育活動に関する協力
- ・学術的情報および出版物の交換
- ・両機関で合意されたその他の事業

国名 台湾
 相手機関名 順益台湾原住民博物館
 協定書等名 国立民族学博物館と順益台湾原住民博物館との学術協力協議書
 締結日 2006年7月1日 / (更新) 2008年1月1日 / (更新) 2009年4月1日 / (更新) 2010年4月1日 / (更新) 2011年4月1日 / (更新) 2012年4月1日 / (更新) 2013年4月1日 / (更新) 2014年4月1日
 協定終了予定日 2015年3月31日
 目的

- ・台湾原住民族の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的調査
- ・国立民族学博物館ならびに他の博物館に収蔵されている台湾原住民族関連の資料に係る調査
- ・上記に係る報告書ならびに研究誌の発行

国名 ペルー
 相手機関名 国立サン・マルコス大学
 協定書等名 国立民族学博物館とペルー国立サン・マルコス大学との間における考古学調査と学術交流に関する協定
 締結日 2005年6月14日 / (更新) 2010年5月18日
 協定終了予定日 2015年5月17日
 目的 考古学分野における共同調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流を促進すること。

MINPAKU Anthropology Newsletter

Newsletter 36 (June 2013)

The Anthropological Study of Fair Trade

- Positively Eclectic! Fair Trade Studies at MINPAKU ————— Motoi Suzuki
Social Aspects of Fair Trade Coffee ————— Arihiro Minoo
Fair for All ? Plantations and the Future of Fair Trade ————— Sarah Besky
Selling with Diversity: Fair Trade Retailers in Niigata, Japan ————— Susumu Nejima
Fair Trade Tourism: An Effective Approach to Promote Solidarity
between Producers and Consumers ————— Motoi Suzuki

Newsletter 37 (December 2013)

Memories of Sasaki

Core Research Project 'The Cult of Things: Possession, Collection, and Representation'

- In Memory of Komei Sasaki ————— Yo-Ichiro Sato
Komei Sasaki: Field Research and Theory Building ————— Peter J. Matthews
The Cult of Things: Possession, Collection, and Representation ————— Shoichiro Takezawa
The Power of Museum Display ————— Kenji Yoshida
Crisis in Dutch Ethnological Museums ————— Paul Faber
Searching for Another Way of Representing Art:
'A Fateful Journey: Africa in the Works of El Anatsui' ————— Yukiya Kawaguchi
Exhibiting Catastrophes in Ethnological Museums ————— Shoichiro Takezawa

みんなくフェローズ

客員研究員等で国立民族学博物館に在籍した研究者で、帰国後も継続的な関係を維持するためにMINPAKU *Anthropology Newsletter*を送付している研究者、および国立民族学博物館と関連の深い国内外の研究機関で、MINPAKU *Anthropology Newsletter*を送付している研究機関。

アジア・中東・オセアニア		ヨーロッパ		北米・中南米		アフリカ	
アラブ首長国連邦	2	アイスランド	2	アルゼンチン	1	エジプト	7
アルメニア	4	イタリア	2	米国	168	エチオピア	4
イスラエル	11	英国	55	エクアドル	3	エリトリア	5
インド	13	オーストリア	3	カナダ	17	ガーナ	3
インドネシア	18	オランダ	15	ガイアナ	2	カメルーン	1
オーストラリア	28	キプロス	1	グアテマラ	5	ケニア	4
韓国	43	ギリシャ	1	コロンビア	2	コートジボワール	2
カンボジア	1	スイス	5	チリ	1	ザンビア	11
サウジアラビア	4	スウェーデン	11	パラグアイ	1	スーダン	1
サモア	2	スペイン	3	ブラジル	5	スワジランド	2
シンガポール	5	スロベニア	1	ペルー	14	タンザニア	2
スリランカ	3	チェコ	3	ボリビア	3	ナイジェリア	3
ソロモン諸島	2	デンマーク	4	ホンジュラス	1	ナミビア	1
タイ	26	ドイツ	38	メキシコ	3	ボツワナ	2
台湾	31	ノルウェー	5			南アフリカ	6
中国	200	フィンランド	4			マダガスカル	2
トルコ	4	フランス	26			モーリタニア	1
ニュージーランド	7	ブルガリア	3				
日本	216	ベルギー	3				
ネパール	8	ポーランド	6				
パキスタン	2	ポルトガル	2				
パプアニューギニア	1	マケドニア	1				
パレスチナ	2	ルーマニア	2				
フィジー	6	ロシア	14				
フィリピン	7						
ブータン	3						
ブルネイ	2						
ベトナム	8						
香港	3						
マレーシア	10						
ミャンマー	9						
モンゴル	9						
ヨルダン	7						
ラオス	3						
小計	700	小計	210	小計	226	小計	57
総計							1,193

博物館学コース

国際協力事業団（JICA）が主宰し、本館が中心となって1994年から10年間実施してきた「博物館技術（収集、保存、展示）コース」は、開発途上国における諸博物館の技術向上と、博物館間の国際的ネットワーク構築に大いに貢献してきた。また、その過程を通じて、本館はじめわが国の博物館関係者も、研修参加者から多くのことを学ぶことができた。

研修コースの設置から10年の節目を迎えた2003年、国際協力事業団は独立行政法人国際協力機構に衣替えし、本館もまた、2004年4月より法人化し、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構の1機関となった。この機に当たり、改めて過去10年の成果を点検し、いくつかの点でコースの改変を行い、2004年度からは「博物館学集中コース」として再出発した。

この新たな「博物館学集中コース」は、本館がJICAから全面的な事業委託を受け、滋賀県立琵琶湖博物館と協同で運営することとなった。もとより、研修の実施に際しては、国内の多くの博物館・美術館とその関係者から協力をあおぐことはいうまでもない。本館のもつ国際的ネットワークは、対象国の博物館事情を踏まえた研修実施に不可欠な要因であり、またその先進的な情報・資料管理や博物館運営は、研修に大きな効果をあげている。その一方で、研修員の多くにとって切実な問題である、自らの属するコミュニティの資料を収集・整理し、展示するという課題については、主として海外資料の収集・展示に関わる人文社会系の博物館である本館での研修に限界があることも事実である。そこで、2004年度からの新しいコースでは、自然科学系の博物館としてこの分野の活動で先進的な業績をあげている、琵琶湖博物館と密接に連携することで、より充実した研修を進めている。また、研修プログラムの設定にあたっては、各講義を講師による一方向の教育ではなく、講師と研修員とが自らの経験や知識を共有する議論の場として位置付け、相互に学び合うコースとなるように留意している。

その後、2009年度からは、JICA 集団研修全体の枠組みが大きく変更され、3年間を一区切りとして、その間は研修員受入れ割り当て国を変更しない、という基本原則が定められた。日本の国際協力事業全体を見直す動きの中で、同一国に継続的な協力を行ってその結果が現地に確実に還元される仕組みを作り、それを3年ごとに確認して当該コースを継続すべきかを外部評価の判断にゆだねる、というJICAの方針から、このような枠組みの変更が行われたものである。しかし、本館としては、この枠組みの変更に際し、博物館関係者を3年間にわたり継続して派遣することが困難な国も多いことを勘案して、「大きな需要を持ちながらも博物館人材の少ない国を切り捨てる結果に陥らないこと」を要望してきた。その結果、2012年度以降は、JICAが各国に向けて要望調査を行う際の、割り当て国の固定をやめ、全世界に要望調査を行うことになった。

2013年度は、エジプト、アルメニア、パレスチナ自治政府、エクアドル、ペルー、グアテマラおよびミャンマーの7か国・地域から10名の研修員を受け入れ、4月12日から7月19日まで研修を行った。本館と琵琶湖博物館での実施だけではなく、東日本大震災の被災地や遠野市立博物館、東京国立博物館や国立科学博物館、広島平和記念資料館などへの研修旅行も行った。また研修員全員が、自国の博物館の活動や課題を報告し、検討する「公開フォーラム世界の博物館2013」を2013年5月25日に国立民族学博物館で行った。77名の参加者があり、報告者と活発な意見交換を展開した。また、全期間にわたって日本のさまざまな博物館関係者と直接ふれあい、その一部の現場を訪ねることで、研修者が日本側の経験に学ぶと同時に、日本側も研修者の目を通して、日本の博物館の持っている可能性と課題に気づかされるなど、たがいに経験と知見を分かちあうことができたと考えられる。

●博物館学コース研修員

BADALYAN Armen (バダルヤン アルメン) アルメニア

————— アレクサンドル・スベンジャリアン記念館 広報・展示計画課課長

GUERRA RUIZ Jenny Lizeth (ゲラ ルイス ジェニィ リゼット) グアテマラ

————— 文化・スポーツ省 国立グアテマラ考古民族博物館 考古学部 アドバイザー

IKHLAWI Jamal A. H. (イフラウィ ジャマル) パレスチナ自治政府

————— 観光考古省 博物館開発部博物館資料管理課課長

MAHMOUD MEAWED Asmaa Ahmed (マハムッド マアウェド アスマ アハメド) エジプト

————— 大エジプト博物館 展示・学術調査ユニット 学芸員

MOLINA GONZALES Sonia Valentina (モリナ ゴンザレス ソニア ヴァレンティナ) ペルー

————— 文化省 博物館部 国立博物館他担当資料登録コーディネーター

Myo Myint Myint San (ミョウ ミン ミン サン) ミャンマー

————— 文化省考古学・国立博物館・図書館局 マンダレー文化博物館 学芸員補（2級）

ORBELYAN Gevorg (オルベルヤン ゲヴォルグ) アルメニア

———— エレバン博物館 副館長 (展示担当)

OTHMANABDELGHANY Moamen Mohamed (オスマナブデルガニイ モアメン モハメド) エジプト

———— 大エジプト博物館 保存修復センター 有機物ラボ ラボ長

REGALADO PINTO Johanna Gissela (レガラド ピント ジョハナ ジスセラ) エクアドル

———— 文化省 文化部 (グアヤス州管轄) 文化・教育部門担当

ROLDAN MONSALVE Virginia Janneth (ロルダン モンサルヴェ ヴィルヒニャ ジャネト) エクアドル

———— アメリカ大陸民芸工芸センター 研究部 ソーシャルメモリーセンター資料・博物館サービス担当 博物館ガイド